

令和6年度 名古屋市まち・ひと・しごと創生・SDGs推進会議
の主な意見について

【委員1】

- ・小学生起業家育成事業や名古屋少年少女発明クラブなど、性別にとらわれず、将来ものづくりに関心が持てるような機会は非常にいい。実際に働く人材では女性の比率がかなり低いので、小学校や中学校のころから、ものづくりや理系に興味・関心が湧けるような企画をたくさんしてほしい。また、名古屋少年少女発明クラブの参加者の男女比は把握していないということだが、1度取ってみて、余りに差があるようであれば、どうすれば女兒が興味・関心が持てるようなPRができるのかということを検討していただきたい。
- ・トワイライトルーム、トワイライトスクールの運営について、宿題や漫画の黙読を自席で行い、お友達とは一切お話ししてはいけないというような、コロナのときと全く同じような活動を現在も続けているところがあると聞く。同じ業務委託先でも学校によって随分差がある。トワイライトルーム、トワイライトスクールの目的は、学年の違うお友達と交流し、その中で自主性や社会性、創造性を育むことである。実際の運営について、実態を把握し、利用者の声の集約なども検討してほしい。

【委員2】

- ・成果指標の「外国人宿泊者数」がまだ集計中となっている。愛知県全体では昨年より大幅に伸びているものの、コロナ前に比べると半分程度までしか回復していないので、名古屋も同じような傾向ではないかと思う。名古屋ならではの魅力を発信したり、観光庁のコトづくりなどの施策を活用したりしながら、回復に努めていただきたい。
- ・公共交通や物流の人材確保・育成については、地域経済や生活、また高齢者のはつらつな暮らしを支える上でも非常に重要である。計画を作る際には、基盤を支えてその上に組み立てていくという観点で考えてほしい。

【委員3】

- ・人口問題、特に転出超過における社会動態について、非常に重要な課題と認識している。生活の質が高い当該地域の魅力をしっかり発信していくことが、この地域にとって非常に重要だと思う。
- ・現在、次期中部圏の広域地方計画の策定に向けて進めているところである。引き続き、情報交換を行い、よりよい中部、またその中心にある名古屋を、いい形で発信したいと思っている。

【委員 4】

- ・この地域の主力である自動車産業が大きな変化を迎える中、新たな成長産業を興していくことが非常に重要である。スタートアップ支援については全国の各自治体でも力を入れているところだが、名古屋市のなごのキャンパス、愛知県のステーションA i、そして中部経済連合会のイノベーターズガレージなど、この地域においても拠点がどんどんできてきているので、これらが連携し、この地域のスタートアップが盛り上がるとともに、スタートアップを担う若い人たちがこの名古屋に集まってくるよう、魅力ある名古屋を作っていただけるような環境整備をお願いしたい。
- ・今後の産業振興は、基本的には労働力は増えないということを前提として考える必要がある。人手不足の解決策の 1 つが、ロボットの活用、自動運転など省人化の取り組みなので、実証実験都市なごやの取り組みなどを引き続き、続けてほしい。
- ・カーボンニュートラルやA I、I o Tなど、世界的課題に対するイノベーションが実施される環境づくりも期待している。
- ・人手不足の中で、男性・女性・高齢者・障害者・外国人など、多様な人材の活用が不可欠になってくる。中部経済産業局では、多様な人材活躍/働きやすい 中小企業事例集を公開しているので、これらを活用しながら、企業間の横の連携を広げることにより、この地域が多くの人にとって働きやすい場所になることを期待する。

【委員 5】

- ・「国際会議の年間開催件数」について、コロナにより目標未達成と非常に苦しい状況であったかと思うが、いよいよコロナも終了したので、海外から人を呼べる展開、コンテンツをどういうふうに用意していくかということも重要になってくる。
- ・東京圏への人の流出について、効果的な打ち手の 1 つがエンタメだと考える。アジア・アジアパラ競技大会の開催が予定され、パロマ瑞穂スポーツパークやI Gアリーナのような高品質で最先端の運動場や展示会場、コンサートホールといったエンタメ会場が整うので、遠くからいらっしゃった方にこの名古屋の魅力をP Rし、1 日でも 2 日でも多く、長く滞在をしてもらいたい。

【委員 6】

- ・首都圏への人口の流出超過、特に若者の首都圏への流出が著しく、またその傾向が増えていると聞いているが、これはやはり何とかしないといけない。出生率の維持向上や子供の支援も非常に大切だと思うが、そもそも流出する人口、特に若者をこの当市に引きとめるための対策が非常

に重要ではないかと思う。どうして若者が首都圏に流出していくのか、しっかりと原因を分析した上で、それを克服する対策に一層ご注力いただきたい。

- ・インバウンドについて、日本全体としては大きく戻ってきているが、やはりこの地域は、他地域に比べ戻りが遅い。その上で、観光というのは名古屋市を元気にするということでも、或いはこの交流人口を増やすという意味でも非常に重要だと考える。特にコロナが5類に移行した今後はこの重要性が増す。インバウンドというのを考えたときに、最初から名古屋訪問というよりは、まず日本に訪問するということから入って、その中でどの地域に行くか、そしてこの中部圏の中で、こういったものを見たいか。こういうふうを選んでいく方が多いと思う。名古屋市がいろいろな取り組みをしているのは百も承知の上で、もう少し、広域の取り組みという意味で、この周辺の自治体ともしっかりと協力しながら、広域観光というところに取り組んでいただけるとより良い。
- ・市内はもちろん、市外の方にもプロモーションをかけていくことで、より魅力的な都市に見える。

【委員 7】

- ・少子化への対応について、基本目標 1・2・3 に跨って記載されている。いろいろな市町が、必死になって取り組みをする中、名古屋市も着手していることがわかり非常に心強い。一方で、結果を出していく実行フェーズになった途端に、進むことが難しくなる場合もあると思う。どんな K P I を設定されてどのように進めていくのかということも、こういった会議体などでぜひ公開しながら、民間側も協力できるところはしていくような機運ができるといい。
- ・若年層の女性の流出が大きいということだが、イノベーションの活動、スタートアップエコシステム、企業の働き方の多様性やデジタル化支援のような多様な働き方が、どれだけ若い女性たちに届いているのか。いきなり名古屋に関わりのない人が名古屋に来るのは、割合としては少ないと思うので、名古屋市に住んでる方或いは市外に出てしまった方に、柔軟な働き方が進んでるというのをプロモーションできるといい。
- ・女性活躍推進の落とし穴として、女性自身が頑張らなくてはいけないイメージがあり、プレッシャーを感じる人もいる。女性が頑張るのではなく、男性も女性も柔軟な働き方というか、みんなが当事者意識を持って、それぞれに協力し合う雰囲気にするような施策になるとより良いと思う。

【委員 8】

- ・基本目標 3「若い世代の希望がかなうまちへ」について、名古屋市の子育て支援策は新規事業含め、しっかりしていると思う。中日新聞では、最

近「結婚は #無理ゲー ですか？」という連載を始めたが、結婚したくてもできないという人や、マッチングがうまくいなくて、最終的にもうしなくていいかというふうになっている人が多いようだ。内閣府の調査では、そもそも結婚で縛られたくないとか、そういう形にこだわりたいという人が多いそう。この辺の意識を変えるのは大変難しいし、そもそも国の課題でもあると思うが、若い人たちが結婚して将来を見据えられるような、そういうマッチングの支援みたいなものができたらいいと思う。

- ・基本目標 4「高齢者がはつらつとして暮らせるまちへ」について、中日新聞でも「誰そ彼のとき」を連載する中で、介護、特に認知症対策は本当に喫緊の対策で、このままでは駄目なんだろうなと強く感じる。介護人材は全国どこも足りないと思うが、名古屋でやりたいと名古屋に集まってくるような支援が、行政としてできればいい。
- ・県との役割分担がきちんとできるといい。

【委員 9】

- ・取り組みやすさや解決しやすさ、重点など、優先順位をつけて順番に書いてあるとわかりやすい。
- ・基本目標 3「若い世代の希望がかなうまちへ」や基本目標 4「高齢者がはつらつとして暮らせるまちへ」は、身近な課題として、自分たちもいつも要望している。予算の問題もあると思うが、ぜひ継続的に取り組んでいただきたい。

【委員 10】

- ・計画を、もう一步深掘りをしていただくと良い。国の政策の後追いでは、名古屋市は沈没するだけだと思う。国の政策とは違うものをとにかく色々出していくということがやはり必要ではないか。ある雑誌によると2050年頃から、名古屋は壊滅的に落ちていくらしい。今は大阪が名古屋に抜かれたんじゃないかという話もあるが、実は大阪以上に名古屋はこの先落ちていくという予測がある。理由の1つは、東京との距離の近さだ。リニアができると、地価や住居費の安さもあり、東京や大阪から人がたくさん来ると言われるが、今でさえ、東京にどんどん流出しているのに、たかだか40分の距離になったら一体何が起きるか。だから、リニアだけにあまり期待しないで、名古屋は名古屋なりの独自戦略を作ったらどうかという、そんな印象を強く受ける。
- ・端的に言うと、資料1にキャリア教育やナゴヤ型若者の就労支援が書かれているが、これらをぜひ頑張って、名古屋なりの強さというものを考えてほしい。観光業でいくのか、製造業で行くのか、そういうところも含めて、腰を据えた取り組みをしていかないといけない。

- ・職業高校はその強さをバンバン打ち出して、小・中学校から、きちんと製造業に向けた、その魅力を発信するような教育をしてもいいと思う。
- ・大学の魅力を発信して、この中部地区、特に名古屋地区の大学の魅力を発信しないと、全国から学生を呼び込めないなので、頑張ってもらいたい。個々の大学レベルで頑張っているところもあるので、それを上手くすくい上げてネットワーク化していく。緩いネットワークで構わないので、そういったものを作っていく、或いは後押しするということをぜひ考えてほしい。
- ・どまつりは全国に発信できる、有力なものの1つだと思う。どういう風にサポートしていくのか或いは関わっていくのかというようなことも考えられていいのではないかな。

【委員 11】

- ・名古屋の衰退について、名古屋はそんなに弱くないと思う。東京の人口がほとんどピークを打って、そろそろ減ってくるが、そちらの方が、影響が大きいと思う。すぐにストロー効果というが、新幹線の駅ができて、効果をうまく取り込んだところと、そんなには取り込めなかったところとあるが、衰退した都市は無い。
- ・スタートアップについて、ものづくりばかり言い過ぎている。エンタメとかスポーツ、その他には、名古屋には芸術大学も音楽大学もあるので、その辺のところで活躍したいと思っている人も多いはず。その辺の支援もやっぱり広くしっかりすべきだと思う。
- ・名古屋市はもっと金融を大事にすべきだ。名古屋は金融特区にも応募していない。金融を大事にしないで、海外から起業家や投資家を呼び込むというのは矛盾していると思う。

名古屋証券取引所は、小さいが、個人投資家と名古屋関係の企業のコミュニティを作る大事な役割をもち、安定している。スタートアップに活用するなど、もっと関心を持ってほしい。

- ・一昨年、世界運河会議が開かれ、ヨーロッパやアメリカなど、いろいろな国の人が参加していた。その時彼らが、運河を使ってスタートアップをやると、多様な文化人が集まってきて、それが大事だと一様に言っていた。小さな運河でやっているところも、随分優秀な人が来ている。名古屋は中川運河があるので、活かせばいいのではないかな。

【委員 7】

- ・計画について、大都市なので総花的になるのは仕方ないと思うが、重点戦略というか強調、差別化のところがもう少し見えてくるといい。また、幸せ、多様性、共創という基本方針が出たときに、すごくすてきだなと思うが、概念的すぎるので、もっと象徴的になるような打ち出し方があ

ると、引きつけられると思う。

- ・ 2 年後にアジア・アジアパラ競技大会があるが、人々の気持ちが 1 つになるのに、エンタメとかスポーツの力はすごく強いと思う。名古屋市には芸術大学やプロスポーツチームもあるので、そういったことを活かした見せ方というか、マーケティングにも是非あわせて力を入れていただきたい。

【委員 10】

- ・ 都市の強靱化に関して、自然災害の問題をやはり真剣に考えていかないといけない。この地域も含めて、大地震が来るのは間違いないので、そのあたりの対策もしっかり具体的に書いてほしい。
- ・ 同じような意味合いで言えば、高齢化の問題も避けて通れない。名古屋市は目配りしてますと、これも含めての強靱化ですというスタンスを示すとすごく現実的であるし、まわり回って、魅力的なものになっていくと思う。

【委員 5】

- ・ 社会インフラである水の確保は、工業用水や上水も含め、この地域の産業の要になっているので、市民の方や産業人の方に、どういう形で水を利用できているのかを知っていただくことが非常に重要だと思う。というのも、コストが高くなっており、水道の値段が今後どうなっていくのかが関心どころの 1 つであるが、どういう形で利用できているのかというところを知っておいてもらうことは、今後コストが上がっていく局面で、受け入れられやすい下地を作るのではないかとというふうに考えている。そのあたりを考慮いただくと、資料 3 の指標「水循環について知っている市民の割合」も、ただ市民の方のパーセンテージを上げる以上の効果が期待できるのではないか。

【委員 1】

- ・ どんなにいい計画を作っても、その計画や本気度がどれくらい市民に伝わるのかが重要だ。総合計画 2028（案）概要版は、働く女性や働く男性、子供や高齢者、いろんな方のイラストを入れてわかりやすく書かれている。しかし、例えば、名古屋市は 2022 年 12 月からファミリーシップ制度を開始しているが、そういったマイノリティの方たちのところにそういった挿し絵が無い。こんなにわかりやすい市民向けのパンフレットに、それをアピールしないのは非常にもったいない。名古屋市で発行している宣誓書受領証のイラストなんかがあるだけでも、名古屋市本気だなということが自然に P R できると思う。大々的なシティプロモーションもとても大事だが、たったこれだけの挿し絵でぐっとアピールで

きる点もあるかと思うので、今後、そういった点にも、目を配るといいと思う。